

青年部会 第6回定時総会 採択議案

第1号議案 2024年度(第5期)の活動を振り返って

1. はじめに

2024年度は宮崎で「第55回青年経営者全国交流会」(以下、青全交)が開催された記念すべき年となりました。日本全国の青年経営者が宮崎に結集したまたとない機会となり、全国から1900名を越す経営者が集って学びを深め、アンケートの結果からも参加者の満足感が伝わってきました。

2024年度は、原点回帰の意味も込め、第一期の活動方針を踏襲した形で活動方針の軸を定め、活動してきました。

- ①私たちは主体者として、組織を牽引していく魅力的なリーダーを目指します。
- ②私たちは経営者として唯一無二の学びの場で、お互いの経営を語り合う風土をつくります。
- ③私たちは成果を共有し合い、共に経営指針経営を学ぶ地域の仲間を増やします。

——青全交の準備を通して本会や県外会員との繋がりを直に感じながら3つの活動の軸と向き合ってきた2024年度は青年部会の転換期となりました。青年部会を創立した先輩たちの想い、青年部会を応援してくださった全国を含む仲間達の気持ちに感謝の気持ちを感じながら、青年部会のさらなる飛躍につなげるべく活動してきた一年でした。

2. 例会づくりを通して、経営者として資質を高める活動を行いました。

青年部会では、設立当初より、例会づくりの基本に則った質の高い例会づくりをめざしてきました。今期は経営指針委員会との共催による例会づくりや、これからの青年部世代経営者の体験報告を取り上げるなどの取り組みを進めてきました。準備段階においては、座長・室長・報告者で連携をとり、各委員会間でコミュニケーションを図りながら共同で取り組む体制も見られました。

8月例会、11月例会と参加目標達成には届きませんでした。徐々に参加者が増加し、ゲスト参加から入会にもつながりました。例会づくりフォームに沿って例会づくりを行うとともに、ブラッシュアップのためPDCAシートを作成し改良を進めてきました。新しいグループ長へのサポートを手厚くすることと、幹事会全体で声かけやゲストフォローをする意識を高めていくことで、さらに大きな成果につながることが

期待されます。

委員会との連携が特に見られた経営指針をテーマにした11月例会は本会からも多くの会員が参加し、一体感のある企画となりました。例会を通じて「経営指針をつくる会」への参加表明や、経営指針委員会と共同しての「つくる会オリエンテーション」の開催につながりました。3月の例会では事業承継をテーマとした青年部会らしい例会を開催し締めくくりました。

青年部参加率30%を達成することができなかったのも、来期は会員との接点づくりを広げて参加率向上に努めたいものです。

3. 委員会活動について。

各委員会ごとの活動参加の促しや、企画連絡などの会員へのアプローチを行って青年部会全体の活性化を意識して取り組み、委員会活動から新しく活動に参加する仲間が増えてきました。2024年度は、委員会の振り分けを早期に行い、未所属の会員さんが少ない状態でスタートしました。今後は満遍なく会員訪問や行事をからめた連絡を継続していきたいと考えます。

青年部会の設立から中心となり動かれてきた会員の卒業があり、活動の連続性の重要性を自覚した一年となりました。以前に比べると委員会活動が確実に活性化していることは確かなので、この輪がもっと広がるようにまだ例会や活動に参加していない人を巻き込んでいく動きで来期につなげていきましょう。

新たな取り組みとして、広報委員会主体での広報勉強会(ブランディング勉強会)を6月21日に開催し、新しい層の会員さんを巻き込み入会につなげることができました。また総務委員会では、議事録のテンプレートを共有し、幹事会中に議事内容の振り返りを行うなど、決定事項や期限、担当などの認識を共通化する施策を行うことができました。仲間づくりの企画によって懇親会により多くのゲスト参加も促すことができました。来期は、それぞれの委員会がさらに自発的に動く組織を目指して、情報共有と協力体制を意識して取り組んでいきましょう。

4. 全県行事や、青年部会外の活動にも参加して、県全体の活性化につながるよう主体的に動き、組織としての活動を意識してきました。

各支部オリエンテーションに参加し、青年部会の存在をアピールしてきました。青年部会としてどんなことをオリエンテーションで伝えるのかを議論し、統一フォームづくりにも着手しました。継続して支部と連携していきたいものです。

青全交では、支部との協力体制をつくることができ、他県会員からも高い評価を得ました。今後も各支部・各委員会と協力し合える関係づくりを意識していきましょう。

2月に開催された「第33回みやざき中小企業フォーラム」の参加目標設定は、実行委員会と連携して設定しました。目標79名に対して66名と達成率83%で未達ではありましたが、ゲスト参加者からの入会3名は皆青年部世代であり、青年部会の担う役割を再認識したフォーラムとなりました。参加者目標設定を委員会と連携して議論し、それを達成する、そして新しい仲間を受け入れる受け皿として進化する組織づくりを今後のテーマとしたいものです。

5. 青全交を通しての学び、県外同友会とのつながり。 そして、今後の組織づくりについて。

「集え！変革者～日本のひなたから照らす未来～」をスローガンに開催された第55回青年経営者全国交流会in宮崎。宮崎という地方での開催にも関わらずリアル参加1658名、オンライン参加315名の合計1973名と、目標の1900名を超えた参加者が全国から集った青全交を開催することができました。青年部会参加者100名も達成することができました。

全体会、分科会、懇親会全ての項目でアンケート結果が5点満点中4.5を超え、参加者の満足度の高さも確認することができました。青全交実行委員会へ参加する幹事メンバーも多く、実行委員長や担当理事が青年部会幹事会に出てくれるなど情報共有や連携ができました。県外へのアピールのため、女全交や全国総会などの全国行事に青年部会からも参加し、青全交成功の一翼も担いました。そして青全交後は、県外での経営体験報告者が増え、宮崎同友会青年部の存在感を示すことにつながっています。青全交で高まった学びの機会創出の機運を生かして、役を担いたいと自ら手を挙げるメンバーを増やす流れに繋がっていききたい。さらに、県外での経営体験報告者が増え、県外にも宮崎の青年部の存在感を示すことにつながりました。

現在は副部会長がリーダーシップを取り委員会を動かしていますが、めざすところは委員長をはじめ委員会のメンバーの意見が集約され、正副部会長に届き、組織的に動く集団を意識したい。また、人が集まるチームになるためにも、自社の事業で結果を出し示すことを大切な視点として活動していきたいと考えます。来期以降、新しい県外に行くメンバーを増やしていくことを意識して、6月の九州・沖縄ブロック合同例会などを生かし、県外とのつながりを強化し続けます。

6. 青全交において特別分科会（あかいし文庫特別分科会）の運営を担い、労使見解の学びを深めました。

青全交では、あかいし文庫特別分科会として、『「労使見解」継承と創造～人間尊重の経営で未来を切り拓く～』をテーマに学び合い、青年経営者が「労使見解」を学びなおす機運を高める機会を創り上げました。リアル128名、オンライン160名、合計288名と参加申し込みは宮崎青全交の中で最

も多い分科会となり、全国の会員の「労使見解」の学びの場への期待が表れました。

(株)エイバックスの加藤会長（愛知同友会）と(有)ウメイチの梅田中同協青年部連絡会前代表（岐阜同友会）を報告者に迎えて、同友会運動の歴史、労使見解の実践、自主・民主・連帯の精神など学びの多い分科会となりました。参加者アンケートでも高い評価を得ました。

つくり込みに多くの青年部会メンバーが関わりました。今後も、「労使見解」について理解が深まり実践に繋げられるような機会を継続的に行うことを意識していきたいと考えます。

7. 青年部会ならではの企画として成長してきた経営戦略模擬会議、また会計的経営感覚を磨く研修を開催し、利益を生み出し企業経営を持続的に発展させていく経営手法の学び場をつくってきました。

青年部会ならではの活動として「経営戦略模擬会議」は、第1期から数えて13回の開催となりました。「決算書勉強会」も行い、経営者に必要な考え方や知識を習得する場づくりを行いました。

模擬会議の報告者として幅広く青年部世代の方に登壇していただき経営状況の共有を行っていただいたり、MG研修に今まで活動に活発でなかった人が参加されたりと広がりが増えた一方で、MG研修はハードルが高い印象がどうしてもぬぐえない一面もあり、2024年度は開催を見送りました。今後は、MGを参加しやすくするように対策も検討します（入門編やMGオリエンテーション等）。

8. 会員同士が知り合う交流の場を設け、お互いの経営を語り合う風土づくりに取り組んできました。

都城や高鍋で開催した懇親会にはゲストが参加し、入会にもつながりました。12月に企画した望年会は宮崎市で開催し、21名が参加して交流を図りました。

9. 青年部会活動は指針経営を学ぶ機会につなげる。経営理念をつくる会や支部の理念作成企画への参加、企業変革支援プログラムの活用などを促進して指針経営に取り組む仲間づくりをめざしてきました。

「つくる会」への青年部会からの参加率が高くなっています。経営指針をテーマにした例会企画や、経営指針委員会と共同で「つくる会オリエンテーション」企画を通して、指針経営への関心が高まっていることが数字に表れました。「企業変革支援プログラムVe 2」の勉強会が宮崎北支部で行われ、青年部会メンバーも参加しました。

10. 仲間を増やす活動を年間通じて実践。また、学びを実践する仲間を増やすため、入会間もない会員へのフォローを行ってきました。

年間純増目標30名に対して、年間純増数は12名となり目標

未達成でした。(達成率40%、退会率12.3%)

仲間を増やす、退会率を下げる観点から会員フォローの重要性も再確認しました。

今期は、各人で会員フォローをしながら、会員訪問を委員会ごとに計画し、幹事会時に確認しながらフォローに繋がられるよう取り組みました。一方で、会員訪問を実施している委員会、これからの委員会とバラつきが出たのが課題になりました。新会員とのつながりが、紹介者頼みになってしまっている状況も見られました。第6期は青年部会以外の方が紹介して下さった場合や自主的に入会された人をどう確認していくのか、つながりを強化していくのかをテーマとし、設定目標を達成するべく行動していきましょう。

11. 多彩な青年団体との交流の場を通して経営者としての学びの幅を広げ、地域間のつながりを強化して宮崎活性化に繋げるべく取り組んできました。

例年青年部会が主体となって実施してきた、「みやざき青年ビジョン会議」を通じて各団体との交流が増えました。YEG、JC、中小企業団体中央会青年部など各団体の総会、県大会やイベントにも声がかかるようになり、同友会青年部会の認知向上が見られた。期首に参加したMOCイベントにより産官学連携の兆しも見えてきました。今後さらに、他の経営者団体や行政、自治体との関わりを意識し、成果につながる活動を広げていきます。

宮崎同友会としても会員空白地帯の活性化の戦略として、他の経営者団体とのパイプづくりが期待されています。そういう意味でも青年部会活動が重要な役割を果たしているので、宮崎同友会の存在をさらに広報し、今後は具体的な取り組みにまで発展させることを視野に入れて活動していきます。

—— 2024年度(第5期)活動の記録 ——

1. 青年部会会員数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月初会員数	155	152	155	158	159	160
入会数	0	3	4	4	1	3
登録変更数	0	0	0	0	0	0
退会数	3	0	1	3	0	3

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
160	160	162	164	164	168	
2	1	5	0	5	2	30
0	1	0	0	0	0	1
2	0	3	0	1	3	19

* 3月末会員数167名 卒業17名 期末会員数150名

2. 例会をはじめとする行事の開催

決算書勉強会(算盤委員会担当)

4月26日(金) 同友会ネットワークで 10名

「決算書の数字と現金にギャップを感じていませんか？」

I Gブレーン宮崎(株) 代表取締役 直野祐樹氏
(県北支部)

内訳：青年部会10名(6.4%)

第5回定時総会(総務委員会担当)

5月21日(火) 宮崎市民プラザ+Zoom会議で 40名

内訳：青年部会37名(23.9%) + O A会員 3名

ブランディング学習会(広報委員会担当)

6月21日(金) KITENで 49名

「ブランディングを知る」

(株)グリッツデザイン 日高英輝氏(会員外)

内訳：青年部会23名(14.6% + O A会員 5名 + 会員企業 6名 + ゲスト11名 + 行政 2名 + 学生 1名 + 講師

7月例会(青全交第14分科会プレ報告)

7月30日(火) 同友会ネットワーク+Zoom会議で 19名

「ちくわ戦略が付加価値を高める～経営者の熱量と変革で小さな一流企業へ～」

(株)谷本建設 専務取締役 谷口和也氏(香川同友会)

内訳：青年部会19名(11.8%)

8月例会(渉外委員会担当)

8月27日(火) 宮崎市民プラザで 39名

「命が循環する牧場～人も牛も幸せな牧場をめざして～」

(株)松浦牧場 取締役 松浦千博氏(ひむか支部)

内訳：青年部会32名(19.9%) + O A会員 5名 + ゲスト 2名

第12回経営戦略模擬会議(組織強化委員会担当)

10月29日(火) 同友会ネットワーク+Zoom会議で 30名

「受け身経営から創造型経営への脱皮」

(株)プリコム 専務取締役 井久保光一氏(宮崎南支部)

内訳：青年部会30名(18.6%)

11月例会(例会委員会担当)

11月26日(火) 宮崎市民プラザ+Zoom会議で 70名

「経営指針は誰が為に！～経営者の成長が未来を創る～」

(株)ビューフィールド 代表取締役社長 前島崇志氏
(宮崎南支部)

内訳：青年部会46名(28.6%) + O A会員20名 + ゲスト 3名 + 会員企業 1名

望年会(仲間づくり委員会担当)

12月21日(土) スナックSunで 21名(13.0%)

第13回経営戦略模擬会議(組織強化委員会担当)

1月14日(火) 同友会ネットワーク+Zoom会議で 22名

「新市場での自社のブランディング戦略」

(株)コノハナ 代表取締役 塩谷愛藍氏(県北支部)

内訳：青年部会20名(13.4%) + O A 会員 2 名

3月例会（広報委員会担当）

3月11日(火) 宮崎市民プラザ+Zoom会議で 52名
「キラめく人生を目指す覚悟の承継～父の想いを受け継ぎ、新たなステージへ～」

ルキア合同会社 代表社員 今別府真希氏
(きりしま支部)

内訳：青年部会39名(23.2%) + O A 会員10名+ゲスト 3 名

卒業式（全委員会から担当者選出）

3月27日(木) ホテルマリックスで 43名
内訳：青年部会33名(19.6%) + O A 会員 9 名+ゲスト 1 名

3. ブロックや全国の仲間との交流

6月26日(水) 滋賀同友会湖南支部 & 青年部 6月合同例会で
(株)南九州みかど代表取締役迎敦雄氏（宮崎北支部）が「赤字企業から黒字企業へ！会社を伸ばし続けるための思考法」をテーマに報告

9月20日(金) 宮崎で
中同協第41回青年部連絡会に多数出席

12月18日(水) 岩手+Zoom会議で
中同協第42回青年部連絡会に 4 名出席

2月7日(金) 愛媛で
中同協第43回青年部連絡会に 4 名出席

4月4日(金) 秋田同友会青年部「あすか会」第17回総会で
(株)日向屋 専務取締役 請問 仁氏（県北支部）が「地域資源を生かす新商品の挑戦！発売 1 年間で売上 1 億円～同友会の仲間と共に築く不離一体の経済圏～」をテーマに記念講演。

4月18日(金) 鹿児島で
九州・沖縄ブロック・青年部連絡会に 6 名出席

4. 幹事会の記録

- 第 1 回 6月10日(月) Zoom会議で
出席：16名(80.0%) + 理事 3 名
- 第 2 回 7月8日(月) 高鍋商工会議所+Zoom会議で
出席：15名(75.0%) + 理事 2 名
- 第 3 回 8月5日(月) 同友会ネットワーク+Zoom会議で
出席：15名(75.0%)
- 第 4 回 9月9日(月) Zoom会議で
出席：19名(95.0%) + 理事 1 名
- 第 5 回 10月7日(月) 延岡市中小企業振興センター + Zoom会議で
出席：18名(90.0%) + オブザーバー 2 名
- 第 6 回 11月11日(月) 未来創造ステーション+Zoom会議で

出席：15名(75.0%) + 理事 1 名

第 7 回 12月 9 日(月) Zoom会議で

出席：13名(65.0%)

第 8 回 1月 8 日(水) Zoom会議で

出席：14名(70.0%) + 次期幹事予定者 1 名

第 9 回 2月10日(月) Zoom会議で

出席：14名(70.0%) + 次期幹事予定者 1 名

第10回 3月10日(月) Zoom会議で

出席：16名(80.0%) + 理事 1 名 + 次期幹事予定者 1 名

第11回 4月7日(月) Zoom会議で

出席：13名(65.0%) + 次期幹事予定者 0 名

第12回 5月16日 Zoom会議で

出席：13名(65.0%) + 次期幹事予定者 3 名

第2号議案

2025年度（第6期）の活動方針

1. はじめに

昨年、全国の青年経営者が宮崎に結集した第52回青年経営者全国交流会（以下、「青全交」）では多くの青年部会員が役を担いそれぞれが大きな学びを得ました。今年度はその学びを活かし、さらなる発展への第一歩を踏み出す年です。

日本社会は依然として厳しい状況に直面しています。コロナウイルス感染症の影響が完全には収束せず、ウクライナ情勢の長期化、中東や東アジア情勢の不安定、円安や物価上昇などの経済的不確実性が続いています。このような情勢だからこそ地域経済を支える中小企業の重要性はますます高まり、経営者にはこれまで以上に変革が求められています。

経営者であることに年齢や性別などの差はないとはいえ、経験の浅い起業家や後継者は独特の悩みや課題を抱えています。そんな青年経営者が悩みを解決できる場所であり、仲間をつくり経営者として成長しあえる場所が宮崎県中小企業家同友会青年部会（以下「青年部」）です。私たちは青年部活動を未来への投資と考え、44歳で卒業という明確な区切りがある中で様々な役割を経験し、経営者としての視座を高めていきます。

今年度は、これまで培った信頼と成果を基盤に、青年部活動をさらに進化させる年です。歴史に学び、未来を切り拓いていきます。私たちを支えてくださる先人たちや全国の仲間たちの想いに応えるべく、「2033vision」達成を目指し持続的な発展を追求します。

「経営者としての経営姿勢の確立」「強靱な企業をつくる学びと実践」「本気本音でぶつかり学びあう仲間づくり」

を通して、私たちは宮崎青年部の新たなステージを築いていきます。仲間と共に学び、成長し、会社を発展させ、地域社会に貢献する最高の未来を描きながら、一步一步前進していきましょう。

2. 宮崎同友会青年部会 活動理念

魅力リーダーになろう！
学びを共に実践しよう！
地域に仲間を増やそう！

3. 宮崎中小企業家同友会青年部 2033Vision

日本に誇れる経営者を、ひなたから！

4. 第6期 スローガン

仲間とつながろう！

5. 第6期 活動方針（2025年4月～2026年3月）

（1）私たちは主体者として、組織を牽引していく魅力的なリーダーを目指します。（経営姿勢の確立）

青年経営者の学びの場である青年部は一人ひとりが青年部活動を自分事として捉え、主体的に役を担い組織づくりを学び実践します。青年部活動および同友会運動は企業経営と不離一体と捉え、社業を優先としつつ、学びと交流を通じて経営者としての資質を高め、関わる全ての人を幸福にできる経営者をめざします。

①リーダーは常に学ぶ先頭に立ち、理念を体現していくことが大切です。座長・室長・グループ長などの役を自ら担い、時には県外行事へ参加して視座を高め、自社経営に生かします。

②会員の経営体験報告とそれを受けてのグループ討論で構成された例会を軸に経営を学びます。また、例会づくりに座長などの役を持って取り組むことでP-D-C-Aの実践力が高まります。

例会づくりは、例会づくりフォームに沿って行い、開催と振り返りを通して学びを深め経営者としての資質を高めます。「指針経営」「事業承継」などをテーマにし青年部一丸となって場を創ります。

各例会への参加目標を青年部会員の30%以上とします。

③具体的な活動は委員会を軸に行います。全ての青年部会員は委員会へ所属して委員会活動へ主体的に取り組むことで、なりたい経営者像に必要な学びを得て自社にて実践し成果を出す事を目指します。

各企画への参加確認などは委員会所属メンバーへ委員会単位で行い、参加を促します。

④本会の総会や支部例会・フォーラムなどの青年部外の活動においてもグループ長を担うなど積極的に関

わり学びを自社や同友会活動において実践します。

フォーラムの動員目標に準じて参加目標を設定し達成します。

⑤青年部活動を通して成長し、自社を発展させるとともに同友会運動の後継者となることをめざします。

（2）私たちは経営者として唯一無二の学びの場で、お互いの経営を語り合う風土をつくります。（学びと実践）

青年経営者としての成長と次世代リーダー育成のために会社経営に必要な知識と実践的なスキルを学ぶ機会を通して「強靱で魅力的な企業」「地域に必要不可欠な企業」づくりを実践します。また、県外にも貪欲に学びの場を求めて実践に繋げていきます。

①青年部ならではの企画として成長してきた経営戦略模擬会議を通じて経営戦略を具体化することに繋がります。

②会計的経営感覚を磨くMG研修等を開催し、利益を生み出し企業経営を持続的に発展させていく感覚を磨きます。

③6月に鹿児島市で開催される「第4回九州・沖縄ブロック青年部合同例会」では分科会に宮崎同友会から報告者が登壇します。分科会づくりに会員を巻き込み、当日も多くの会員の参加によって盛り上げ、そこで得た学びの熱狂を宮崎に広げます。

参加目標：30名

④11月に高松市で開催される「第53回青全交in香川」の分科会に青年部から報告者が登壇します。青全交の分科会づくりを共に学び今後への糧とするとともに香川青全交へ多くの会員の参加を促します。

参加目標：35名（青年部対象者）

⑤会員同士が知り合う交流の場を設け、お互いの経営を語り合う風土づくりを行ない、退会者を減らします。退会率8%台を目標とします。

⑥青年部活動は指針経営を学ぶ機会につながります。経営理念をつくる会や支部の理念作成企画への参加、「企業変革支援プログラムVer. 2」の活用などを促進して指針経営に取り組む仲間を増やします。

⑦会議（幹事会など）は2時間以内で終了、例会などは2時間半以内で終了を基本とします。

⑧支部・県・全国行事のスケジュールを配慮した上で行事を開催します。

⑨全県下の活動である青年部は、すべての支部や県内地域にて行事を開催します。またリアル開催だけでなくオンライン配信も合わせるハイブリッド形式での開催を積極的に実施します。

⑩ハイブリッド設営が一部の会員に集中しないように設営を担える人材を育成します。

(3) 私たちは成果を共有し合い、共に指針経営を学ぶ地域の仲間を増やします。(仲間づくり)

我々は次の世代へ繋いでいくため地域のことを本気で考え学びあう仲間を増やし持続可能な地域をつくります。そのような主体的な仲間が増えるには、お互いを知り、違いを認め、あてにしあてにされる関係が必要です。青年部は楽しく学び合いながら成果を目指し、それぞれの会社・環境・目指す姿を深く知り合う「シンの仲間」ができる場です。

- ①行事へ参加したゲストを毎月確認する場を設けフォローを行ない今期は青年部会員純増20名（入会32名、退会12名）を達成します。期首150名なので、期末会員数170名を目指します。
- ②これまで活性化を図ってきたSNSの活用等を駆使して、青年部の魅力を掘り起こした広報活動・情報発信を行い、入会に繋がります。
- ③7月を会員交流強化期間とし、第5期入会者に対してフォローを行います。
- ④学びを実践する仲間を増やすため、入会間もない会員へのフォローを行います。
- ⑤支部オリエンテーションで青年部の紹介をさせていただく機会をつくりだします。
- ⑥交流する仲間を増やし年間で1度も行事に参加しない会員を減らします。
- ⑦同友会活動の輪を広げ、次期幹事候補も発掘し育成します。
- ⑧中同協青年部連絡会・九州沖縄ブロック会議・全国行事などへの参加を広く推進し、広い視野と大きなスケールでの学びを得ながら全国の県外同友会とのネットワークをより強固にします。
- ⑨宮崎の青年団体が連携し活動の場を広げていくことが、宮崎の経済地域活性の相乗効果を生み出します。多彩な青年団体との交流の場を通して経営者としての学びの幅を広げ、地域間のつながりを強化して宮崎活性化に繋がります。
- ⑩青年部としての活動指針を正副部長を中心に取りまとめます。またその活動を通し、指針経営を広げる機会につなげます。

以上の方針を実現するために、以下の7委員会を主体に活動します。

渉外委員会 直前部長担当

顧問：請関仁 副委員長：大田原武志、山本勝弥

【基本方針】

「地域と共に歩む中小企業」の実現を見据え、地域と中

小企業を強く豊かにすることをめざします。同友会外の経営者団体や県外同友会との交流の場をつくり、相互を活性化する委員会です。外部との接点づくりを担います。自分たちの活動をより良いものにし、経営者としての資質を向上させるためには積極的に外からの学びや情報を掴みにいく必要があります。活発で成長しあえる繋がりをつくっていくことで部会メンバーの成長につなげて満足度を高めることがミッションです。同友会の知名度向上を図り、地域へ良い影響を及ぼせる環境に向けて前進します。そして何より、新しい出会いを楽しんでいきます。

【第6期ビジョン】

「交流から共創へ。出会いを楽しみ、我々が宮崎の元氣をつくろう！」

自分達が宮崎の元氣をつくるんだという姿勢を大切にしながら、活動を楽しみ、委員会を自然に周りに伝えたいような運営を行い、新しいメンバーの委員会参加も盛り上げます。

企画の意図を深め計画を練り、「創り出す」活動を実践することで、バックキャスティング思考を広げ、経営者としての資質向上を年間の活動を通して実現します。

【活動内容】

- ・8月例会（事業承継） 参加目標：50名
- ・委員会の開催
- ・定期会員訪問
- ・JCインバウンド事業への参画
- ・委員会に定期参加するメンバーを3人つくる（目標）
- ・九州・沖縄ブロック合同例会のツアーを企画・実行
- ・香川青全交のツアーを企画・実行

総務委員会 幹事長担当

委員長：乙守孝仁 副委員長：杉村善隆、吹上匠

【基本方針】

支部を横断する組織である青年部の活動を推進できるよう、組織運営の基盤強化と各委員会の活動支援に注力します。戦略的かつ主体的な組織運営をめざします。

幹事会においては、会議の司会を通して効果的な会議進行のスキルを実践的に学び、組織の意思決定プロセスを革新的に改善していきます。総務委員会の各メンバーは、組織全体の視点を持ち、主体的に行動することで、青年部の価値向上に貢献します。

情報共有においては、「誰が」「いつまでに」「何を」するのかを明確にし、デジタルツールを活用して透明性の高い、効率的なコミュニケーションを実現します。これにより、各委員会の活動をスムーズに推進し、組織全体の生産性を高めます。

総務委員会は、会議運営、情報管理、進捗管理など、経営に直結する実践的なマネジメントスキルを実践しな

がら学べる委員会です。学んだスキルを自社の組織文化改革や業務効率化に即座に応用し、経営者としての視野を広げることができます。

【部内役割】

- 総会（5/13）の準備・設営、当日の進行
- 毎月の青年部幹事会の司会進行、運営
司会：総務委員会 / 議事録：幹事持ち回り
- 青年部会員リストの整備
- 各行事ごとの資料整理、管理
- PDCAサイクルを意識した幹事会運営の実践
- デジタルツールを活用した効率的な進捗管理、情報共有の実践

魅力リーダーになろう部門（担当副会長：岩本翔太）

例会委員会

委員長：成合聡

【活動方針】

「仲間をつくる 例会づくりを」

- ① 例会づくりフォームの活用。
より良い例会づくりを誰もが分かりやすくできるよう協力しサポートします。
- ② 担当例会 「経営指針例会」（2月）の成功
経営理念を作成し理念にそって行動することが大切であることを、個人事業主にも知ってもらいたい。理念の大切さから経営指針の大切さに結びつくキッカケと、指針経営をする意味を学ぶ例会を行います。

【活動目標】

例会参加70名・（青年部会42%）、ゲスト参加5名
「つくる会」参加表明5名

学びを共に実践しよう部門（担当副会長：井久保光一、幸森雄次郎）

算盤委員会

委員長：井久保光一 副委員長：黒木隆正、三島大輔

【基本方針】

『数字で語れる経営者になろう！』

経営において、数字（お金）の問題というのは常についてくるものであり、日々意思決定を行う経営者として、その感覚というものは常に敏感でなければいけません。算盤委員会は、「数字（お金）に対する感覚を磨き、浪漫と算盤の両立ができるようになる。」ための学びの場をつくり、青年経営者が経営に必要な数字感覚を身につけます。

【取り組み】

- MG研修（マネジメントゲーム）の開催
MG研修の一番大きな特徴は、「ゲームを通じた」「経

営体験」ができることです。ゲームを通じて実際の経営を体験し、擬似的に様々な企業経営経験を積めます。「体験」することで、「自ら気づく」こと、そして「課題を認識する」ことができ、また「戦略会計」を学ぶことで、「利益感覚」と「コスト感覚」を習得できます。ゲーム内で、B/S、P/L、キャッシュフローなどに触れ、「決算書が読める」ようになるのもMG研修ならではの。逆算で計画をたて、その計画を達成するためにどう行動するか、そして決算処理時に、なぜ達成できなかったのか？なぜ計画以上にうまくいったのか？など、実際の経営とリンクさせながら、利益から逆算で考える重要性や、自分で数字を見る、知ることの大切さを学びます。

● 決算書勉強会

「決算書勉強会」を企画し、決算書を自社でどう経営に活かしていくのか、同業他社、また銀行や税務署はどういった部分を見ているのか、勘定科目は？在庫の評価方法は？など、決算書の中身について深く学ぶ場をつくりまします。また、数字に対して、資金繰りや財務管理にどう向き合うべきか、何を知っておくべきなのかといった心構えも身につけます。その中で、青年経営者内で決算書を紹介しあい、数字について相談しあえる仲間づくりも活発にしていきます。

【活動計画と活動目標】

6月8日 決算書勉強会 参加目標：20名
9月13日 MG研修 1 DAY
2月6-7日 MG研修 1 DAYまたは2 DAY

組織強化委員会

委員長：別府 昭人 副委員長：小牟禮康太郎

【基本方針】

経営について語ろう！

● 経営戦略模擬会議（以下「模擬会議」）

悩める青年経営者が自らの経営課題に対する解決策や新たなビジネスモデルを提示し、参加者はその会社の役員になったつもりで本気で経営と向き合い語り合う模擬会議を開催します。模擬会議では気軽に安心して参加できる場を作り、参加者が経営について語り合い、本気で経営と向き合うきっかけになる企画をめざします。次は自分が報告したい！と思える模擬会議をつくりまします。

● 支部企画情報発信

青年部幹事会の場において各支部の行事の情報発信を行い、支部活動への青年部会員の参加を促進します。また、支部活動の情報発信により将来的に青年部から支部幹事を担っていく人材であることへの意識づけを行

います。

【活動計画】

- 模擬会議の開催 7月31日、3月12日
参加目標 各回30名（ゲスト2名）

【目標】

- ① 模擬会議に参加したゲストから年間2名の入会
- ② 報告者がどのような成果が得られたか効果を確認します
- ③ 自ら報告者になりたいと思える模擬会議づくり

魅力発信部門（担当副部長：請問ひかり）

広報委員会

委員長：岩城望 副委員長：廣瀬一成

【テーマ】

チラシ制作の仕組み化と効果測定を進め、広報委員メンバーを増強し、体制を強化します

【前期の振り返りと今期のテーマについて】

前期では、Facebook・HP・公式LINEを活用し、例会や模擬会議、MG研修、みやざきビジョン会議など青年部の魅力的な活動を多くの方に向けて発信してきました。公式LINEでは、登録者を100名増やす目標を達成できなかったものの、登録者数が153名（+53名）となり、多くの方へ青年部の魅力を発信することができました。

今期は、この土台を活かし、会員の例会参加率向上や新規会員の増加につながる発信に取り組んでいきます。

また、前期ではチラシ制作を一人の担当者に任せていたため、質は担保されていた一方で代替要員がいない状況になっていました。今期は、広報活動をさらに拡大するため、チラシをテンプレート化し、誰でも制作できる環境を整えていきます。

【今期の目標】

- 例会チラシ制作の仕組み化
- 公式LINE・Facebookページでの発信効果測定の実施
- 広報委員メンバーの3名増員
- 広報勉強会の開催 参加目標：40名

【活動内容】

- 顔・人柄が見える発信の強化

同友会が行う活動内容だけでは魅力を十分に伝えきれないため、例会をつくる人や報告者、活動している人の魅力・熱量を伝える発信を行います。

- ゲスト開拓

例会を通じて経営者とのつながりを広げ、公式LINEのお友だち登録につなげます。

- チラシ制作の仕組み化

誰でもチラシを制作できるようにデザイン制作ツールを統一します。Canvaの採用を予定しており、デザインの知識がない方でも簡単に制作できる環境を整備し

ます。生産性向上のため、AIの活用なども検討していく予定です。

- 公式LINE・Facebookページでの発信効果測定の実施
配信内容がどのくらいの人に届いているかを数値で確認し、今後の課題を分析・改善していきます。また、効果が見込まれない施策は実施せず、効果が高いものにリソースを集中させることも検討します。
- 広報勉強会の開催

地域に仲間を増やそう部門（担当副部長：請問ひかり）

仲間づくり委員会

委員長：齋田知明 副委員長：白川哲隆

【基本方針】

仲間づくり委員会は青年部や同友会の良さ・楽しさを、まだ知らない方々へ伝え仲間の輪を強めていく委員会です。会員同士が交わる場をつくり、交流を深めることで会活動に自主的に参加する青年部会員を増やすように働きかけます。また、会員訪問を担当し会員同士の連帯を深めていくことで「同友会に入ってよかった！」という声が沢山あがるように活動していきます。

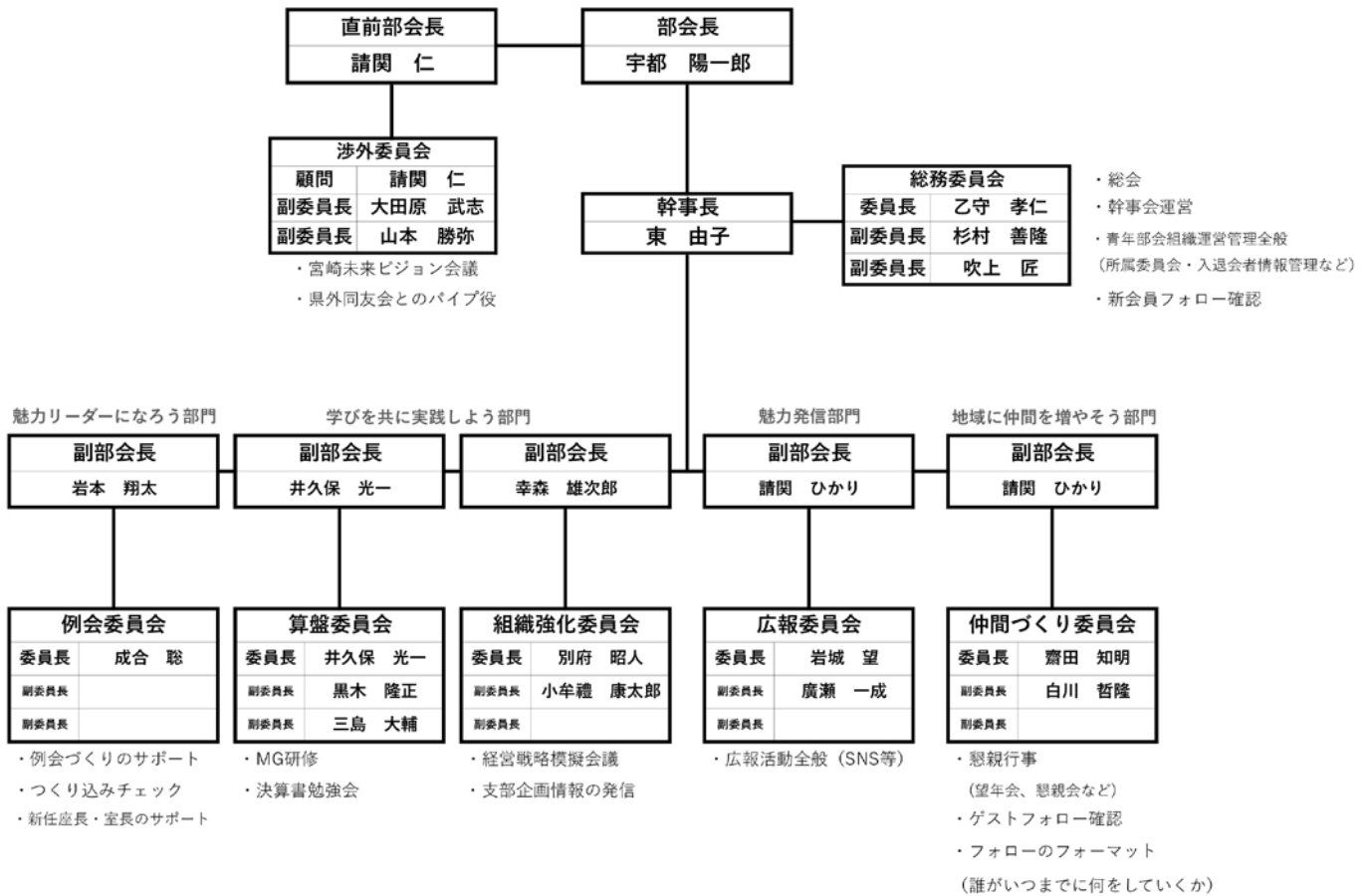
【部会内での役割】

青年部会会員同士の絆・連帯感を深めていく役割を担います。交流会や望年会などの青年部の交流を深めるイベントを行うほか、新会員さんや同友会活動に中々参加できていない方へのフォローアップのやり方を確立させ、活動への積極的な参加を促し、活気ある青年部会をめざします。

【活動内容】

7月12日 交流会 参加目標：45名
10月23日 10月例会 参加目標：60名
12月5日 望年会 参加目標：35名
フォローアップシートの作成
フォローアップ研修の開催

第6期（2025年度） 青年部会組織図



◎企画の声かけは幹事が所屬委員会メンバーへ行う

<役職定義>

役職名	役 割	身に付くスキル	出席会議
委 員	・委員会活動のメンバー	・主体性	・担当委員会
副 委 員 長	・委員会の運営 ・委員会活動の計画、実行、評価、改善 ・委員長不在時の委員長代行	・チームを活性化する力	・担当委員会 ・青年部幹事会
委 員 長	・委員会の運営 ・委員会活動の計画、実行、評価、改善 ・委員会活動が指針に沿っているか管理 ・副部会長不在時の副部会長代行	・チームマネジメント	・担当委員会 ・青年部幹事会
副 部 会 長	・担当部門活動が指針に沿っているかの管理 ・部門主要事項の進捗確認 ・青年部指針作成メンバー ・部会長不在時の代行	・部門組織のマネジメント ・経営指針書作成	・委員会 ・青年部幹事会 ・正副部会長会議 ・九州・沖縄ブロック会議
幹 事 長	・部会長不在時の筆頭代行 ・青年部指針作成メンバー ・各部門の調整 ・活動が指針に沿っているか確認	・経営指針書作成 ・幹部マネジメント	・青年部幹事会 ・正副部会長会議 ・九州・沖縄ブロック会議 ・中同協青年部連絡会
部 会 長	・青年部会の運営 ・青年部指針を作成し、活動が指針に沿っているか管理 ・活動方針に沿った言動 ・理事	・経営指針書作成 ・経営指針発表会 ・組織マネジメント	・青年部幹事会 ・正副部会長会議 ・九州・沖縄ブロック会議 ・中同協青年部連絡会 ・組織強化推進協議会MT ・理事会
直前部会長	・青年部会の運営補佐 ・青年部指針作成メンバー ・部会長が参加できない県外行事への参加 ・全青年部会員のフォロー	・マネジメント全般 ・見守る力	・九州ブロック会議 ・青年部連絡会

青年部会 2025年度活動計画

※日程は変更になる可能性があります

幹事会 (運営:総務)			活動						入会目標
			日程	活動種類	担当委員会	開催場所	動員目標	ゲスト参加 目標	
4月	4/7 (月)	Zoom	4/12(土)	キックオフミーティング	正副	宮崎			
			4/17(木)	みやざき青年ビジョン会議	渉外	宮崎			
5月	5/8 (木)	宮崎	5/13(火)	青年部会総会	総務	宮崎			
			5/13(火)	懇親会	総務	宮崎	-		
6月	6/4 (水)	Zoom	6/6(金)	決算書勉強会	算盤	宮崎			2
			6/13(金)	九州・沖縄ブロック合同例会	-	鹿児島県	30		
7月	7/2 (水)	Zoom	7/12(土)	交流会	仲間づくり	宮崎	45		2
			7/31(木)	模擬会議	組織強化	都城	30	2	
8月	8/6 (水)	宮崎	8/26(火)	8月例会(事業承継)	渉外	宮崎	50		3
9月	9/3 (水)	高鍋	9/13(土)	MG研修	算盤	宮崎			5
			9/16(火)	青全交ブレ報告会					
10月	10/8 (水)	Zoom	10/23(木)	10月例会	仲間づくり	都城	60		4
11月	11/5 (水)	都城	11/7(金)	フォーラム	全県行事	高鍋			4
			11/20-21	香川青全交	全国行事	香川県	50(35)		
12月	12/3 (水)	Zoom	12/5(金)	望年会	仲間づくり	宮崎	35		4
1月	1/7 (水)	宮崎	1/14(水)	広報勉強会	広報	宮崎	40		2
2月	2/4 (水)	Zoom	2/6-7	決算書勉強会+MG研修	算盤	宮崎			2
			2/26(木)	2月例会(指針経営)	例会	宮崎	70	5	
3月	3/4 (水)	宮崎	3/16(月)	模擬会議	組織強化	宮崎	30	2	4
			3/26(木)	卒業式	幹事会全体	宮崎			
4月	4/8 (水)	Zoom		第7期キックオフミーティング	正副	宮崎			

78

MEMO